

ナショナルサイクルルート 「トカプチ 400」について

国土交通省 北海道開発局 帯広開発建設部 道路計画課

1 はじめに

我が国では健康志向、環境意識の高まり等により自転車保有台数は増加を続け、特に近年ではロードバイクなどのスポーツ車の利用が増加しています。「北海道総合開発計画（2016年3月閣議決定）」では、北海道において、アジアの中でも特徴的で魅力的な観光資源を活かしながら「世界水準の観光地」を目指しており、サイクルツーリズムなどの振興等により、広域的な観光周遊ルートの形成を促進することとされています。また、2017年5月に自転車活用推進法が施行、2018年6月には自転車活用推進計画が閣議決定され、自転車を取り巻く機運が高まっています。

そのような中、北海道と北海道開発局では、自転車の走行環境、受入環境の改善・充実を図るための方策や、サイクリストも参画した効果的な情報発信の方策について、「北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会（2017-2018）」による検討を経て、アジアの中でも特徴的で魅力的な北海道の観光資源を活かしながら、サイクリングを楽しめる環境を高めていくことを目的として、官・民をはじめ多くの関係者が連携・協働する取組を北海道内で本格展開していくため、2019年8月19日に「北海道サイクルルート連携協議会」を設立、「北海道のサイクルツーリズム推進方針」が策定され、北海道内の質の高いサイクルツーリズムを提供する団体（国のモデルルートに設定）を募り、サイクルツーリズムを推進しています。

十勝地域では、この推進方針に則り「北海道 TOKACHI サイクルツーリズムルート協議会（以下、ルート協議会）」が設立されました。ルート協議会で設定したサイクルルートである「トカプチ 400」がナショナルサイクルルートの指定に至るまでの取り組みについて紹介します。

2 十勝地域について

十勝地域は、北海道の南東部に位置し、日本で7番目の大きさを誇る「岐阜県」とほぼ同じ大きさに相当する面積を有しています。雄大な平野の中央部を十勝川が流れ、西側と北側には2000m級の日高山脈と東大雪がそびえています。平野部のところどころには扇状地や丘陵地が広がり、日本最大の食糧基地と呼ばれるにふさわしい肥沃な大地に広がる農業・酪農の風景が見られます。

十勝地域における自転車文化は歴史が古く、活動母体の1つである「十勝サイクリング協会」は1966年に設立され、サイクルスポーツの普及に半世紀以上努めているなど、先人達が築きあげてきた自転車文化の素地がある地域であり、北海道内において先駆的にサイクルツーリズム推進に取り組んでいました。



十勝管内位置図

3 「トカプチ 400」 第2次ナショナルサイクルルート指定までの変遷

(1) 第1ステージ ～研究会の設立～

「トカプチ 400」としての取り組みが始まったのはルート協議会の前身となる「十勝サイクルツーリズム研究会（以下、研究会）」を2015年に立ち上げたことがきっかけです。

十勝地域におけるサイクルツーリズムは、以前から各自治体や事業者が取り組んでいましたが、地域で個別に実施するなど、横の繋がりに欠けていました。そうした中、研究会は十勝地域が世界水準の観光地として発展していくために、十勝が目指すサイクルツーリズムの未来像を関係者間で共有し、その実現に向けて従来の市町村単位の枠組みを超えて関係者が連携していくことを目的に設立しました。第1回研究会では、学識経験者、行政、商工観光、自転車関連事業者ら60名が集まって議論やサイクリング試走会を行い、十勝のサイクルツーリズムの魅力を再認識するところからスタートしました。

(2) 第2ステージ ～試行ルートとしての取り組み～

研究会において現地試走や関係者間での議論を重ね、2017年春に帯広市を起終点とし、北十勝と南十勝を8の字で結んだ地域の骨格となる基幹ルート「トカプチ 400」（全長403km）を設定しました。

「トカプチ 400」は、北海道と北海道開発局で取り組む「北海道のサイクルツーリズム推進方針」に基づくモデルルートとして活動するため、「トカプチ 400」のアクションプランを策定、ルート協議会を立ち上げ、行政と地域の事業者が役割分担をしながら、サイクルルートの走行環境の改善、受入環境の充実、魅力的な情報発信に関する取り組みを進めてきました。

(3) 第3ステージ ～モデルルートとしての取り組みからナショナルサイクルルートへ～

「トカプチ 400」のアクションプランをもとに取り組みを進めてきたところ、2021年1月に第2次ナショナルサイクルルートの候補ルートとして選定され、ナショナルサイクルルート審査委員会による審査を経て、2021年5月に第2次ナショナルサイクルルート「トカプチ 400」が誕生しました。



図 トカプチ 400 の取り組みの変遷



トカプチ 400

山、平野、海へ。自転車で旅すれば、きっと十勝は、もっと面白い。

十勝には、日本最大の食糧基地と呼ばれるにふさわしい肥沃な大地に広がる農業・酪農の風景があります。

トカプチ400は北海道東部に広がる十勝平野を8の字に結んだ、延長403kmの基幹ルートです。



広大なスケール

トカプチ 400 は、北は三国峠までの山岳ルート、南は日高山脈や広大な平野を望むパノラマルートなど多様な景色を楽しめるルートです。どこまでも続く広大な大地を疾走する体験は他では味わえません。



充実したレンタサイクル

1年中自転車を楽しむためのレンタサイクルが充実しています。街乗りからロングライド、雪上サイクリングまで。それぞれの目的や体力にあわせて、最適な自転車をお勧めします。



十勝の食を存分に味わおう

日本の食糧基地と言われる北海道の中でも、十勝は特に食材が豊富な地域で、美味しいものがいっぱい！野菜、肉、魚、ワイン、スイーツなど、季節に応じた多彩な食をぜひ堪能してください。ファームレストランも多いのも魅力の一つです。



図 トカプチ 400 のルート概要

4 サイクルツーリズム環境向上に向けた取り組み

(1) サイクルツーリズム走行環境向上に向けた取り組み

サイクリストの安全・安心なサイクリング環境を作るため、複数市町村にまたがる全長 403km の広域なルートにおいて、国道、道道、市町村道で統一されたルート案内サインの設置や、注意喚起などの安全対策が必要です。そのため、北海道開発局帯広開発建設部が主体となり、各道路管理者および河川管理者をメンバーとした「走行環境部会」を設置し、実効性の高い取り組みを関係者間で連携し推進しています。

○走行環境向上に向けた取り組み

【走行環境の安全性確保のための矢羽根型路面表示・注意喚起看板の設置】

- ・ 矢羽根型路面表示の設置による危険箇所の注意喚起（主要交差点における路面表示や急カーブ手前、トンネルや覆道出入口等）
- ・ 注意喚起看板の設置による危険箇所の周知（急勾配箇所や狭小幅員区間など）

【ルート案内サインの設置】

- ・ サイクリストが迷わず走行するため、ルート上の分岐部や単路部へのルート案内サインの設置

●主要交差点部における路面表示(道道493号)



●急勾配箇所の注意喚起看板(道道85号)



●急カーブ前の矢羽根設置(国道336号)



●橋梁部における注意喚起看板(音更町・町道)



●トンネル路面表示・注意喚起看板(道道73号)



●トンネル注意喚起看板(国道273号)

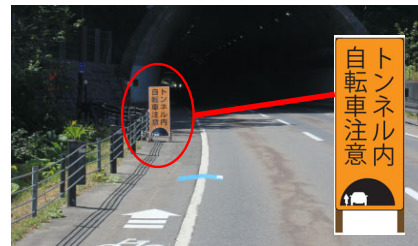


図 走行環境の安全性確保のための矢羽根型路面表示・注意喚起看板の設置

●ルート案内サインの設置



ルート案内シール



ルート案内路面表示



ルート重複区間での案内



河川敷での路面表示

図 ルート案内サインの設置

(2) サイクリスト受入環境向上に向けた取り組み

サイクリストの快適で安全な利用をサポートするためには、サイクリスト受入環境の向上が求められますが、受入環境の向上は地域の事業者による取り組みが必要不可欠です。そのため、「受入環境部会」を設置し、事業者間で情報共有、連携を図りながら初心者から上級者まで十勝地域でサイクリングを楽しむことができる環境づくりを進めています。

○受入環境向上に向けた取り組み

- ・ゲートウェイとなる主要な交通結節点の整備（JR 帯広駅・バスターミナル「おびくる」、とかち帯広空港）
- ・サイクリストウェルカムな休憩施設（サイクルステーション）や宿泊施設の整備
- ・利便性の高いレンタサイクルサービスの導入（手ぶらレンタサイクルの導入、レンタサイクルの乗り捨てサービスなど）
- ・サイクリングガイドツアーやサイクルイベントの開催
- ・緊急時のサポート強化（休憩施設での工具貸し出しやチューブ販売、道路パトロールカーへの空気入れ・工具の搭載など）

●ゲートウェイの整備



バスターミナル「おびくる」



とかち帯広空港

とかち帯広空港：
サイクルラック

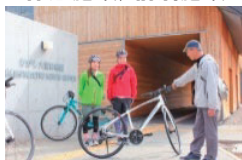
●ガイドツアー/イベントの開催



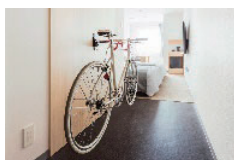
コロナ時代におけるサイクリングツアー（2～3人のグループで獲得標高を競うサイクルイベント、十勝クライム・キャンプ）



●休憩施設/宿泊施設の整備

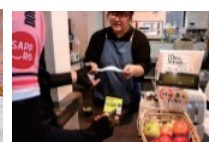


ひがし大雪自然館



自転車を持ち込める宿（NUPUKA Hanare HPより）

●緊急時のサポート体制



休憩施設での工具・空気入れの貸出・自転車用チューブ販売（道の駅ピア21しほろ）

●レンタサイクル環境の整備



手ぶらレンタサイクル
（おびくる・とかち帯広空港）



レンタサイクルの乗り捨て
（上士幌町観光協会HPより）



【自転車工具】

【ポンプ】
「米式」「仏式」
「英式」の全て
に対応可



【バイク内積込状況】

【自転車工具等を搭載した道路パトロールカー】
道路パトロールカーへの空気入れ・自転車工具の搭載

図 受入環境向上のための取り組み

(3) 情報発信・誘客に向けた取り組み

サイクリストに十勝地域を訪れてもらうためには、情報発信が重要となります。「トカプチ 400」の魅力を効果的に発信していくため「PR・誘客部会」を設置し、行政・事業者間で連携し、情報発信のためのコンテンツ作成や誘客に向けた取り組みを進めています。

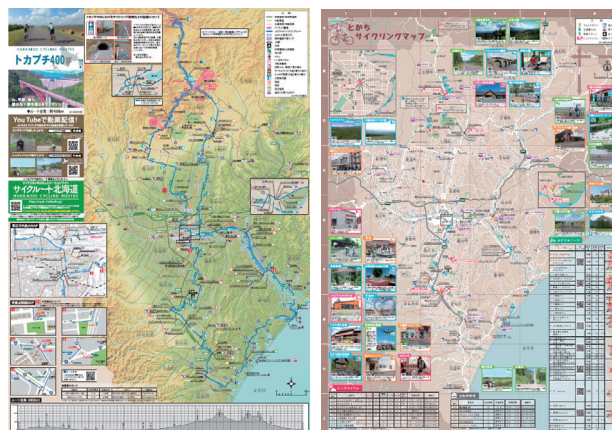
○情報発信・誘客に向けた取り組み

- ・「トカプチ 400」公式 HP の作成
- ・サイクルマップの作成（多言語化対応：日本語・英語・繁体字・タイ語）、ゲートウェイや休憩施設での留め置きやサイクルイベントで配布
- ・中上級者へ向けた PR 動画の作成、YouTube で公開、バスターミナル、空港などのゲートウェイで放映
- ・「トカプチ 400」を活用したイベントの検討、実施
- ・地域間交流によるサイクルツアーの実施（静岡県掛川市交流事業「ゆるゆる十勝自転車旅」）

●「トカプチ400」HPの作成



●「トカプチ400」マップの作成



トカプチ400ルートマップ(左:表面、右:裏面)



上段:施設での留め置き
下段:イベントでのマップ配布

●「トカプチ400」PR動画の作成

中上級者向けPR動画



ロードバイクで楽しめる北海道・十勝地域の広大な大地とダイナミックな風景をPR

初級者向けPR動画



多様なレンタサイクル(ロードバイク・クロスバイク・e-bike・ミニペロ)を利用した十勝での楽しみ方をPR

●地域間交流事業「ゆるゆる十勝自転車旅」



図 情報発信・誘客に向けた取り組み

5 おわりに

多くの関係者が十勝地域の振興のため、同じ目標をもって取り組んできた成果の1つとして、2021年5月に「トカプチ400」は第2次ナショナルサイクルルートとして指定されました。しかし、今回のナショナルサイクルルート指定はスタートラインであると考えています。

十勝地域のサイクルツーリズムを推進するためには、持続的・発展的な活動ができる体制の構築が必要です。これまで以上に、行政と地域内外の関係者が協働・連携しながら、「走行環境部会」、「受入環境部会」、「PR・誘客部会」での取り組みを推進し、さらなる環境整備を図ることで十勝サイクルツーリズムの目指すべき姿である「十勝地域における世界最高水準のサイクルツーリズム環境を構築し、サイクリスト誘客による地域活性化」を目指していきたいと考えています。